

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 17 日現在

機関番号：55301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530777

研究課題名(和文) スカンディナヴィアにおける人権擁護システムとしての情報保障制度の実証研究

研究課題名(英文) Study on the social system for guaranteeing equal access to information in Scandinavia as human rights protection system

研究代表者

角谷 英則 (Kadoya, Hidenori)

津山工業高等専門学校・一般科目・准教授

研究者番号：90342550

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：3カ年にわたって、スカンディナヴィア3国における現地調査を実施した。それによって、各地における情報保障制度・情報保障媒体の成立過程とその特徴を明らかにすることができた(とくに情報保障に関する先行研究が当該地域においてもほとんどなく、ノルウェーにおいては皆無であることが確認された)。また北欧、とくにスウェーデンをモデルにしたといわれてきた日本のLL系情報保障媒体が、日本の障害者運動の影響を大きく受けており、よりラディカルな性質を有していることが明らかになった。両者間の比較から、情報保障の理論的位置づけと日本における情報保障政策上の課題析出がなされた。

研究成果の概要(英文)：For three years on-spot-investigation has been completed in three Scandinavian countries, and thereby it has made clear the formation process of social system for guaranteeing equal access to information (GEAI) and their printing media, besides its historical characteristics. In parallel it was confirmed that very few or no earlier studies could be found in the relevant areas. Media for GEAI in Japan was believed to be modeled on that in Sweden, however, this comparative survey has shown that it is under strong influence of disability rights movements uniquely developed in Japan, with more radical features. Based upon this comparative study theoretical account and establishment of GEAI and problem clarification in the Japanese linguistic political context were accomplished.

研究分野：社会言語学

キーワード：情報保障 LL 言語権 コミュニケーション権 情報アクセス権 スカンディナヴィア スウェーデン  
ノルウェー

## 1 . 研究開始当初の背景

現在 , 日本においても「情報のやり取り」「コミュニケーション」という視点から見た社会的弱者をいかにして社会的に包摂していくかということが喫緊の課題となりつつある。近年 , 視覚障害者や聴覚障害者に対する , 社会生活に必要な情報の保障は , 字幕の普及や手話通訳 , 情報の点字化機会の拡大に見られるように , 十分ではないにせよ進展しつつある。また , 情報の受発信にハンディキャップのある身体障害者だけでなく , 在日外国人への災害時情報提供なども , 情報弱者への対応の一環として問題化されてきている。そのための電子機器やツールの開発も盛んである。しかし , 他方で , 新渡日外国人 ( ニューカマー ) や在日朝鮮人一世 ( オールドカマー ) などに多く見られる , 日本語の非識字者 , あるいは発達障害者 , 知的障害者など , コミュニケーション上の障害を抱える人々が , 情報の受発信に際して , 社会生活上の困難を抱えており , 十分な社会的権利の保障がなされていないことは , あまり社会的課題として認識されていないという現状がある。こうした人々は , マスコミや行政の発信する音声・文字情報から疎外される傾向にあり , さらに行政サービス , 公教育 , 医療 , 司法の現場において , 情報の受発信を円滑にできないために不利益・権利侵害の甘受を強いられている状況がある。したがって , これらの情報弱者を社会的に排除しない仕組み作りは , 日本社会の健全な安定化 , マイノリティの社会的インクルージョンを考えると , 不可避の課題といえる。本研究は , こうした社会的な情

報弱者への情報提供とその社会的包摂について , 民主主義の実現という観点に立ちながら先進的政策を実現しているスカンディナヴィア三国 ( スウェーデン , ノルウェー , デンマーク ) の状況を政策関係者への直接の調査により明らかにすることを目的としている。スカンディナヴィア社会は , 障害者運動やその進んだ社会的インクルージョン政策に加え , 第二次世界大戦後 , 早期に大量の移民導入を経験している。そうした社会の経験から日本社会が学べることは依然多くあると思われる。スカンディナヴィアにおける情報保障政策は , 市民 , NPO による社会運動の一環としてはじまり , そこに公的な補助が与えられるという形をとり , すなわち市民運動を主体として進行してきている。そのため , これまで学術的な研究対象とはされてきていないのが現状であり , 情報保障運動がいつ , どこで , 誰によって開始され , 発展してきたのかといった基本的な事実も明らかになっていない現状があった。

## 2 . 研究の目的

情報保障政策のスカンディナヴィアにおける発達がどのようにして可能になったのか , その歴史的・理論的背景はどこにあるのか , 現在の状況に問題はないのかといった観点からの学術的研究は , 申請者による予備的な研究報告を除いて , 存在しなかった。こうしたわずかな議論も , 社会 ( 言語 ) 学領域でみられるのみであり , 日本では情報保障が社会福祉学の対象とされてきていない。本研究は , 実証調査によって得られたデータにもとづいて , 日本社会の情報保障上の諸問題と比較することによって , 情報保障を社会福祉につらなる政策的課題の一つとして位

置付けることも意図している。

### 3. 研究の方法

本研究が第一に対象とするのは、LL-bok (Lättläst-bok / スウェーデン語で「やさしく読める本」の意) の普及や新聞の発行を行っている、準公的な性格をもつ組織である。そうした機関を直接訪問して聞き取り調査をおこない、記述・分析の材料とする。そこでえられた知見を日本社会における情報保障上の諸問題と比較することによって、日本における言語政策・情報保障上の課題の特性、課題を析出した。

### 4. 研究成果

3 カ年にわたって、スカンディナヴィア 3 国における現地調査を実施した。それによって、各地における情報保障制度・情報保障媒体の成立過程とその特徴を明らかにすることができた。とくに情報保障に関する先行研究が当該地域においてもほとんどなく、ノルウェーにおいては皆無であることが確認された。また北欧、とくにスウェーデンをモデルにしたといわれてきた日本の LL 系情報保障媒体が、日本の障害者運動の延長上に位置し、よりラディカルな性質を有していることが明らかになった。両者間の比較から、情報保障の理論的位置づけと日本における情報保障政策上の課題析出がなされた。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 8 件)

打浪文子 (2015) 「知的障害者の情報機器の利用に関する社会的課題 軽度及び中度の当事者への聞き取り調査から」『淑徳大学短期大学部紀要』54, pp. 105-120 (査読無)

打浪 (古賀) 文子 (2014) 「知的障害者の社

会生活における文字情報との接点と課題 軽度及び中度の当事者への聞き取り調査から」『社会言語学』14, pp. 103-120 (査読有)

あべやすし 「言語学習のユニバーサルデザイン」『日本語学』9月号, 56-67 (査読有)

打浪 (古賀) 文子 (2014) 「知的障害者への『わかりやすい』情報提供に関する検討 『ステージ』の実践と調査を中心に」『社会言語科学』17(1) pp. 85-97 (査読有)

かどやひでのり (2013) 「日本手話は「自然言語」か」『社会言語学』第 13 号, 175-186 (査読有)

KADOYA, Hidenori, "Dekonstruado de Esperanta frazeologio", Christer Kiselman, Melanie Maradan (red.), *Leksikologio, frazeologio, historio, semantiko kaj terminologio: du kontinentoj renkontgas en Hanojo, Aktoj de la 35-a Esperantologia Konferenco en la 97-a Universala Kongreso de Esperanto, Hanojo 2012*, Universala Esperanto-Asocio, Rotterdam, 2013, 15-21 (査読有)

松尾 慎・菊池哲佳・Morris J. F・松崎丈・打浪 (古賀) 文子・あべやすし・岩田一成・布尾勝一郎・高嶋由布子・岡典栄・手島利恵・森本郁代 (2013) 「社会参加のための情報保障と『わかりやすい日本語』 外国人, ろう者・難聴者, 知的障害者への情報保障の個別課題と共通性」『社会言語科学』16(1) pp. 22-38 (査読有)

あべやすし 「金融機関の窓口における代読・代筆について 公共性とユニバーサルサービスの視点から」『社会言語学』13号, 59-83 (査読有)

あべやすし 「「識字」という社会制度 識字問題の障害学(2)」『社会言語学』12号, 21-33 (査読有)

〔学会発表〕(計 12 件)

かどやひでのり (2015) 「情報保障の定義を再検討する」日本言語政策学会, 於: 椋山女学園大学, 2015/6/7

打浪文子・かどやひでのり (2014) 「ノルウェーにおける情報保障 活字媒体『クラール・ターレ』について」第 11 回障害学会, 沖縄国際大学, 2014. 11. 8-9

打浪文子 (2014) 「知的障害者への情報提供媒体の国際比較からの考察 「わかりやすい」情報提供の実現のために」日本社会福祉学会第 62 回大会, 早稲田大学 2014. 11. 30

かどやひでのり (2014)「漢字の問題化がす  
すまないのはなぜか」シンポジウム：日本語  
表記と漢字の功罪，日本のローマ字社，於：  
文京シビックセンター，2014/10/25

及川更紗・大塚裕子・打浪文子 (2014)「知  
的障がい者を対象とした文章のわかりやす  
さの解明 季刊誌「ステージ」を対象に  
」VNN 研究会 2014.8.23

打浪文子 (2014)「誰にでもわかることばで  
の情報発信の意義と課題 知的障害者の社  
会参加の観点から」第13回情報保障研究会，  
愛知県女性総合センター，2014/7/19

かどやひでのり・打浪文子 (2013)「情報  
保障における当事者性 情報保障の媒体の  
日瑞比較」言語政策学会第15回記念大会，  
桜美林大学，2013.6.2，pp43-45

あべやすし (2013)「社会がうみだす情報弱  
者 ことばのバリアフリーにむけて」『日本  
言語政策学会 第15回記念大会予稿集』69-73

打浪(古賀)文子・かどやひでのり (2013)  
「知的障害者向け機関誌『ステージ』 当  
事者性から見る情報保障」第10回障害学会，  
早稲田大学，2013.9.14

打浪文子 (2013)「知的障害者への情報支援  
に関する考察 - 「わかりやすい」情報提供の  
実現可能性を中心に - 」日本社会福祉学会第  
61回大会，北星学園大学，2013.9.21

工藤瑞香・打浪文子・大塚裕子 (2013)「知  
的障がい者と健常者の初対面時におけるエ  
スノグラフィ の分析」日本社会福祉学会第  
61回大会，北星学園大学，2013.9.22

かどやひでのり (2012)「識字/情報のユニ  
バーサルデザインという構想---識字・言語  
権・障害学」『ことばと社会』第14号，三元  
社，141-159 (査読有)

〔図書〕(計2件)

あべやすし『ことばのバリアフリー 情報保  
障とコミュニケーションの障害学』生活書院，  
2015年

あべやすし「これからの日本語を構想する  
ことばのバリアフリーの視点から」神吉宇  
一(かみよし・ういち)編『日本語教育 学  
のデザイン その地と図を描く』凡人社，  
2015年，194-195

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：

発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

角谷 英則 (KADOYA, Hidenori)

津山工業高等専門学校・一般科目・准教授

研究者番号：90342550

(2) 研究分担者

打浪 文子 (Utinami, Ayako)

淑徳短期大学・こども学科・准教授

研究者番号：30551585

(3) 連携研究者

あべ やすし (ABE, Yasusi)

愛知県立大学・非常勤講師

研究者番号：90626053